

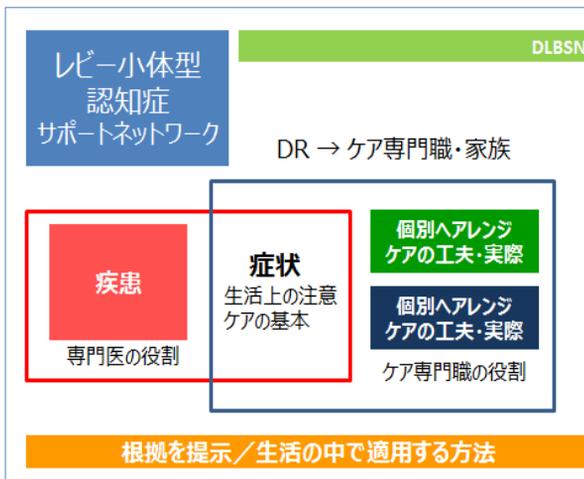
## 医療とケア—協働のポイント

DLBSN東京代表 長澤 かほる

(株)ケアサークル恵愛 介護支援専門員・東京都認知症介護指導者)

### ■ 専門医と、ケア専門職の役割とは？

最近、各地で「レビー小体型認知症サポートネットワーク」のエリア新設に伴い、その地の顧問医の先生方のご講演をお聞きする機会が増えました。もちろん、東京エリアの顧問医、協力医の先生方もそうですが、DLBの患者さんや家族のため、喜ばしいことに多くの先生が、日常生活領域に関する情報も示してくださっています。



多岐にわたるDLBの症状については、「なぜその症状が起こるのか」という根拠を、具体的に、わかりやすく、説明して下さると、ご本人・ご家族は正しく理解できるようになり、治療とケアの両面で良い成果につながります。まさに、眞鍋雄太先生が提唱する「病気を『識る』」です。

左図はDLBSNの役割について、新設エリアで行なう「スタート研修」用に作成したイメージスライドです。

例えば、顧問医が「食後低血圧」について、発症のメカニズムだけでなく、食事に関する一般的な注意も説明します。それだけでも十分かもしれませんが、ケア専門職がご家族と共に、そのご家庭ならではの、あり方や好み、こだわりなどから折り合いのつく実際的な方法を考えていくなら、その人のための個別ケアにつながります。

役割分担については様々な考え方があられるでしょう。しかし、それぞれの枠線が分断してしまい、触れも重なりもしないという状態だけは避けなければなりません。

「できることは、医療 2 割、ケア 8 割」(DLBSN東京協力医：高瀬義昌先生)

「医療とケアは、車の両輪。両方が回転しないと前へ進めない」(DLBSN東京顧問医：眞鍋雄太先生)  
先生方の『道しるべ』となる素敵なお言葉に、敢えて、加えさせていただければ

「自動車にハンドルは二ついらない。 たった一つのハンドルを握るのはDLBご本人と家族」  
患者本人・介護家族を忘れて、医療もケアも独走や先回りはいけません。決定の権利は誰にあるのでしょうか。  
『オールドカルチャー』に戻さないために、『パーソンセンタードケア』の実践のために… 自戒の言葉です。

## ■先生にどう伝えたらいいのですか？

様々なDLBの症状に対して、ケアと薬の両面からの助けで、生活の質を高く確保することをめざしたいものです。

そのためにも、今、

「どんな症状がでているか」

「生活上どんな支障があるのか」

「薬の効き具合はどうなのか」

など、実際と具体を先生にきちんと伝えていくことが大切です。

そのための

- ・コミュニケーションツールとして
- ・ご自分の病状の記録として

活用していただくための「症状日誌」を、

DLBSNの先生方による監修のもと、イーザイ(株)が制作いたしました。

ご希望の方は、交流会の時に担当スタッフにお声かけください。



## DLBSN東京…今後の予定……………

催しの約1か月前に、ウェブサイト(ホームページ)に 詳細なご案内を掲示します。

- 10月交流会 10月29日(土) 午後 会場：池袋
- 11月全国交流会 11月5日(土) 午前 会場：新横浜プリンスホテル
- 12月お休み
- 2月シンポジウム 2月4日(土) 午後 会場：調整中

通常の交流会ではなく、DLBSN東京の顧問医、協力医による講演会を開催します。

総合内科・神経内科・精神科・在宅診療の、それぞれの立場でDLBについて、治療について、ケアについて多角度から情報提供していきます。ご期待ください。

※ 次回のコラム担当は水上勝義先生(DLBSN茨城 顧問医)です ※